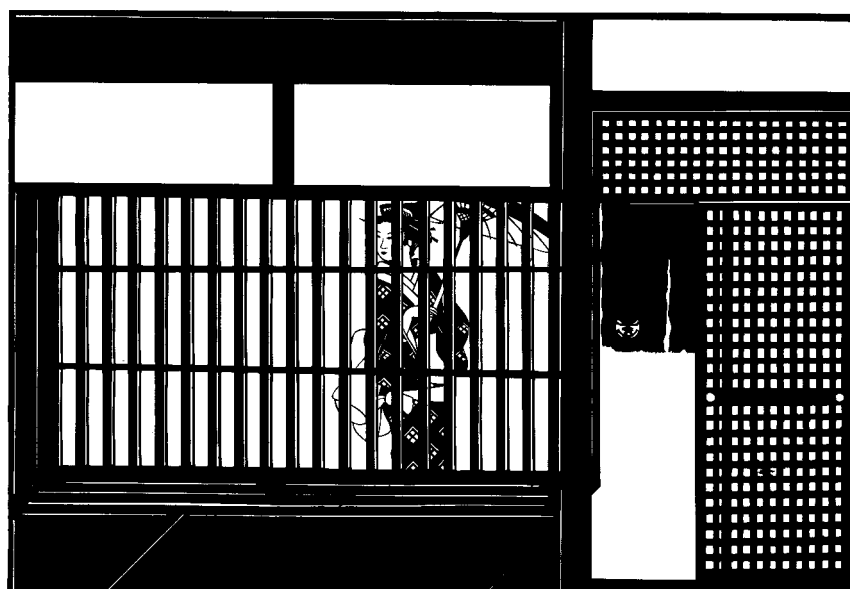


# OMNIBUS

大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書室報

C O N T E N T S

図書館機能の持続ある発展に向けて〔河野公一〕	2
書評「神は妄想である」〔古谷榮助〕	3
しだれ桜と…〔出口寛文〕	4
携帯小説と私〔増田乃梨恵〕	5
図書館利用状況	7
メディカルオンライン利用報告	8
本学教職員著作寄贈	10
お知らせ	11
図書館業務日誌	12
編集後記	12



雨あがり



## 図書館機能の持続ある発展に向けて — 2 期目就任にあたり—

河野 公一

このたび図書館長に再選されましたので一言ご挨拶申し上げます。

本学図書館は、1994年の新館オープン以来、歴代館長のもと図書館職員をはじめ、関係各位のたゆみないご尽力のおかげで、国内の医学図書館でも屈指の規模、内容を得るに至りました。また本学図書館には看護専門学校図書室も併設されており、本学に所属する全ての学生、教職員のための学術情報センターとしての役割を担ってきました。ただここ数年来、図書館利用者からの様々な要望や期待、医学図書館としての使命は大きく変化しつつあります。

このため、これら課題の解決に向けて、図書館将来計画検討委員会により作成された指針に沿って、図書館機能の拡充を行ってきました。

これまで本学P A会（学生父兄の会）のご助力による無人開館システムの導入などにより開館時間の延長や、本学同窓生や医師会のご援助により閲覧座席数の拡充（現在250席）、書架の増設などを行いました。

また学生の利用もたいへん多いニューメディア情報室の機能拡充や、本学教職員、地域医師会員のための生涯学習コーナーの新設をしました。従来情報室内にあったCD-ROMやDVD閲覧用のパソコンは図書館2階のオープンスペースへ移動させ、加えてインターネット上のコンテンツを利用できるコーナーとして再スタートしました。

プライマリユーザーに対する情報システムの改善の一貫として、図書館の利用者が館内どこからでも、いつでも図書館が提供する情報にアクセスできるように館内に無線LANを構築するとともに、あわせてユーザ用ノート型パソコンを整備しました。現在では学内LANを利用すれば大学研究室や、新講義実習棟のPBL用教室、また附属病院内の医局や臨床研修センターなどから医中誌WebやOvidなどの検索、図書館がオンライン購読する雑誌の閲覧が可能になっています。これらにより教職員はもとより、学生や研修医の学習環境が大幅に向上しました。

本学図書館と地域の公共図書館とりわけ高槻市中央図書館や大阪薬科大学などの大学図書館との図書情報の共有や図書相互利用などの連携が求められています。幸いこれまでに本学と高槻市や薬科大学との連携協定が締結され、これらの事業の推進が可能になりました。まず本学の教育連携施設である三島救命救急センターに対して、医学情報処理センターを介して文献検索などの情報支援を行う事業に着手しました。

近年、大学附属病院を利用する患者さんやその家族、また地域住民に対する図書を中心とした医学情報の提供は図書館にとっても重要な課題です。そのため病院長のご指導を得て、院内の図書コーナー設置に向けて準備を始めています。

図書館のバリアフリー化への取り組みは重要な課題でもあり、今年度、図書館入口扉を自動開閉式にするなどの工事を行いますが、一方セキュリティーの維持も大切であり、また館内での飲食、蔵書の紛失や破損も絶えず、このため館内約20か所に防犯カメラによるモニタリングシステムを設置しました。

現在本学では医学、医療分野の学習、教育、研究情報を迅速かつ的確に提供できる情報基盤の整備が急速に進んでいます。そのため、近い将来医学情報処理センターや図書館がコアとなった総合的な学術情報センターの設立も期待されます。

本学の伝統ある歴史を踏まえて、図書館機能のさらなる拡充に向けて教職員各位ならびに学生、研修医、地域医師会員を始め関係者のご指導ご助力をお願い申し上げます。

(このの・こういち 図書館長、衛生学・公衆衛生学教授)

## 書評

### 『神は妄想である』

リチャード・ドーキンス 著 垂水 雄二 訳 早川書房

古谷 榮 助



私はいまだき狭い地球の表面にお墓を作るなどとは時代に合わないと考えていたのであるが、最近、高槻市内のお寺の境内に墓地を購入した。私の田舎の家は岐阜県中津川市にあるが、私は次男であるので独立して墓を作らなければならない立場にあった。私の子供たちが今後どこに住むかも分からないのに、辺鄙な田舎に墓を作るわけにも行かないと思っていたところに、たまたま新聞の広告で市内のお寺が割安の値段で売り出したことを知ったからである。もうひとつの理由はそのお寺は禅宗であるが、作る墓の宗派は問わないということであったからでもある。先祖代々の宗派を変えることには少し抵抗も感じるが、法事のたびに田舎から坊さんと呼ぶのも大変である。宗派については今後ゆっくり考えることにした。しかし、よく考えてみれば宗教は人が安らかに死ぬことができるために作られたものであるから（私はそのように理解している）、死は避けられないものであると自覚していれば死を恐れることはないし、宗教も不要なはずである。ましてや宗派にこだわる必要もないはずである。そのようなことを考えているときに、リチャード・ドーキンス著「神は妄想である」が目にとまった。

この本で著者が問題にしている宗教は一神教であるキリスト教、ユダヤ教、イスラム教である。これらの宗教は進化論を否定し、そして科学をも排斥する。リチャード・ドーキンスは利己的な遺伝子の著者として知られている生物学者である。生命科学者である著者がそのような宗教を認めることができないのは当然であろう。

著者は言う、「宗教の無い世界を想像してみしてほしい」と。現在もイラクで起きている自爆テロ、9.11同時多発テロ、イスラエル・パレスチナ戦争、旧ユーゴスラビア紛争、北アイルランド紛争など、すべては宗教戦争である。宗教は人が幸せに生きるためにあると思込込でいたのであるが、現実とは全くその逆である。その一方で宗教は特権を与えられている。宗教上の理由であると言えば徴兵拒否もできる、麻薬使用も許される、宗教法人は税金も免除される。そして宗教を信じる人間にその信仰の正当化を求めれば、それは「信教の自由」の侵害となる。人を救うはずの宗教が何ら正当性もないのに絶対的に正しいと思込込ませて、憎しみを煽りたて、人を戦争に駆り立てる。とんでもないことである。さらに著者は言う、「ある一人の人が妄想にとりつかれているとき、それは精神異常と呼ばれるが、多くの人間が妄想に取りつかれているときは、それは宗教と呼ばれる」と。

進化論者である著者はこのような宗教がなぜ世界中に蔓延ったのかを、進化論的に分析している。言うまでも無く、生物は自然淘汰により優れた遺伝子が生き残ることで進化を遂げてきた。したがって、遺伝子が生き残っているということはその遺伝子が優れていた証でもある。著者は社会現象、言葉、習慣、社会制度なども遺伝子と同様に進化論的に分析している。宗教が世界中に蔓延っていることは進化論的にはそれなりのメリットを持っていたからであると考えられそうである。しかし、

世の中には明らかに何のメリットも無いのに残っている現象がある。一例として虫が火の中に飛び込んで死ぬことがある。この現象の虫にとってのメリットは説明が難しい。著者は虫が巣に帰る際に月の光を利用して方向を定める習性の副産物として説明している。そして、著者は宗教の起源についてもこれがメリットを持っていたから現存するのではなく、何か別の現象の副産物として説明し、次のように結論している。人間はほかのどんな動物よりも、先行する世代の蓄積された経験に頼る習性を持っていて、親の言うことを聞き入れることで危険から身を守ってきた。子供は常に親の言うことをきくように躰けられ、その結果、年上の人間の言うことには疑問を持たずに服従するという行動をとりやすくなる。さらにこのような習性に加えて、人間の子供は二元論（精神は肉体と切り離して存在する）を受け入れやすいために、宗教的な観念を容易に受け入れる素地がある。この二つが宗教の蔓延る要因であると著者は分析している。

この本で著者は科学的に分析することによって宗教を根本から否定しているが、仏教の影響を多分に受けている我々はなぜそれほどまでにとおわないでもない。しかし、日本にも排他的な新興宗教が現に存在し、影響力を持っている現実を考えると、よそ事と思っておられない。いずれにしても宗教であるかないかを問わず、排他的で絶対的に正しいとして批判を許さず、従うことを強制する組織や人ほど危険なものはないことは確かである。大切なのは科学的な考え方である。もともと無神論者と自覚していた私もこの本で自信を深めたのであるが、死や墓にまつわることとなると宗教を無視することは難しい。排他的でない宗教ならばよしとしなければならないのかもしれない。

(ふるや・えいすけ 化学教授)

## しだれ桜と…

出口 寛 文

この文章が掲載されるのは6月頃でしょうか。書いているのは4月上旬ですので、皆様のお手元に届く頃には、いささか季節はずれの内容となってしまうのはご容赦をお願いいたします。

わが家の小さな庭にしだれ桜が初めて花をつけました。私の稚拙な写真の腕前では、可憐な花びらが春風にそよぐ姿を十分ご覧いただけいかも知れません。朝な夕なに垣根の向こうを散歩するひとびとには足を止めて眺めていただけているようです。庭の片隅のしだれ桜は背丈が3メートル近くもありますが、しだれた枝はまだとても細く、みごとにたくさんの花をつけている姿にはけなげな感じさえいたします。早朝に庭に出ると、朝日の中に薄桃色の花卉が透けて見え、あわただしい時間をすっかり忘れてしまいそうになります。



さて、このしだれ桜がわが家に届いた経緯を少しお話ししましょう。

5年前の春、東京での学会が終わった折に上司から「桜を見に行かないか」と誘われました。隅田川か上野の桜かと思っていたところが、東北新幹線に乗って、福島につき、そこからまたローカル線ではるばる桜の名所にたどりついたのは午後でした。

突然野原の斜面に現れた一本の巨木の桜は圧倒的な存在感で、上司と私は声を失っていました。桜だよりで有名で皆さんもご存知の「三春の桜」は見事に満開の花をつけ、少しのそよ風に花びら

を散らしているのです。すぐさま、近くの農家に立ち寄り桜の苗木を求めました。その際に、私も庭にふさわしく小さな苗木をいただいたのです。後日届いた苗木は、新聞紙に包まれた小さな根に針のように貧弱な幹がようやく付いている感じでした。こんな苗がいったい育つのかしらと思いつつ、妻と二人で庭の片隅に植えたものでした。

私には、このしだれ桜の苗木に少しばかりの思い入れがあります。それは上司からいただいた桜であることと、その頃大学の中で私にひとつの立場の変化があったからです。当時、内科はあまりにも専門性が確立されてしまったため、ありふれた症状で受診した患者さんや、初診で来られた方がどこで診てもらったらよいか分かりにくく、行き場がないなどの問題が生じていました。そこで、受け皿として総合内科がちょうどそのころ設立されたのです。私は循環器内科が専門でしたが内科全般に興味があり、何よりも日々の診療につきない喜びを感じていました。総合内科に移っても全く違和感はありませんでした。しかし、「全人的医療」と口では言っても、わからないことばかりで苦労の連続ではありました。しだれ桜がわが家に届いたのがちょうどその頃に当たるため、何か特別なものと感じてしまうのかもしれませんが。

針のように細い幹が毎年少しずつ太くなり、冬をしのぎ、春を迎え、柔らかな薄緑の新芽を付けるころになると、妻と庭先で、「今年こそは桜の花が見られるかしら」と話し合ったものでした。それが今年には幹が5センチ、丈は先に述べたように3メートルにも達し、とうとう可憐な花びらをつけるまでになったのです。私は、今も総合内科の診療に携わり、患者さんに触れ、話し合う喜びを感じています。大学での診療は少しずつ形を変えながらも大切なものはいつも変わらないように思います。医療がいかにか先進のものに変化しようとも、大本のところではそう大きな揺るぎはないものであると言えるのかも知れません。風にそよぐしだれ桜を眺めながら、私どもが最初に築いた総合内科の精神がいつまでも継続されてゆけばと願います。

来年もわが家のしだれ桜は、また今年のように見事な花びらを春風に揺らせながら、道行くひとびとを楽しませてくれるのでしょうか。

(でぐち・ひろふみ 教育機構専門教授)

## 携帯小説と私

増 田 乃梨恵

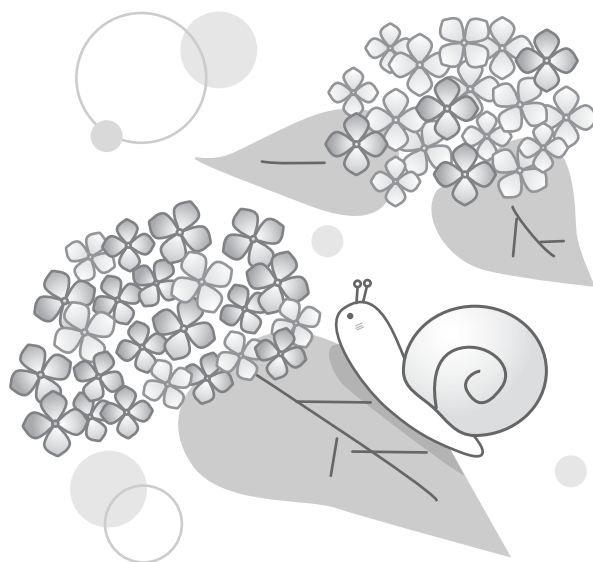
私は、小さいころから読書が好きでした。小学校時代は、毎週友達と図書館へ行き、何冊も借りて読んでいました。その頃読んでいた本はドキュメンタリーの本が多く、読むには涙を流していました。幼い子どもが、病気に立ち向かう姿を描いた本を読んだときには「どうして辛いときに人に優しく出来るのだろうか?」「どうしてその現実を受け止めることが出来るのだろうか?」と考えずにはいられませんでした。考えても答えはでなかったですが、折角この本と出逢うことが出来たのだから私もこの子たちのように強く、また人に優しく生きていきたいと思うようになりました。本は私に様々なことを教えてくれたり、成長させてくれました。知識や思考力・読解力・想像力などは勿論のこと「人としてどう生きていきたいのか」「将来どうなりたいのか」「幸せって何なのか」などを考えたことで、私の生き方に多少は影響があったのではないかと思います。

中学・高校時代では本を読むという機会が減り、その代わりに短時間で手軽に読める漫画へと引き込まれていきました。漫画に入り込んでしまうと、文ばかりの本を読むことが億劫になり、読書感想文を書くという課題がなければ読まないほど全く読まなくなりました。看護専門学校に入学してもそれは変わりませんでした。本を持ち歩くのも重たいし、ただでさえ荷物が多いのに読めるか

もわからず持ち続ける本は邪魔なものでしかないと感じたことも、読まなくなった一つの要因でした。そして私は、本への興味を失くしてしまいました。しかし、一年次の夏期休暇は時間に余裕が出来たため、人に本を借りてまた読み始めることになりました。その本のお陰でその世界や登場人物の容姿を想像して楽しむことができるという本のメリットにもう一度気付くことができ、また本を読みたいという気持ちを取り戻すことが出来ました。けれども、学校が始まればそんな時間はなかなか持てないし、本を持ち歩くということは面倒臭いので嫌でした。

しかし、本のメリットに再び目覚めたことで「本を持たずに暇なときに気軽に本を読みたい!!」という思いを抱くことができました。この私の思いを叶えるものがありました。それは、携帯小説でした。携帯小説は携帯電話さえ忘れなければ、ちょっとした時間でも手軽に読めるし短編のものもあるため、最近の私のちょっとした息抜きになっています。携帯小説が読めるようになったことで、多くの方が活字に触れる機会が多くなったと思います。携帯小説は偏ったジャンルのものが多いため、様々な知識を得るには不十分だとは思いますが。しかし、気分転換などのためなら本という形態がなくても読める携帯小説はとても良いと思います。しかし、様々な知識を得ようと思えば本の方が適していると思います。携帯小説のお陰で本の素晴らしさに気付くことができたので、面倒臭いなどと言わずに、自分を高めるためにもまた本を読み始めようと思っています。

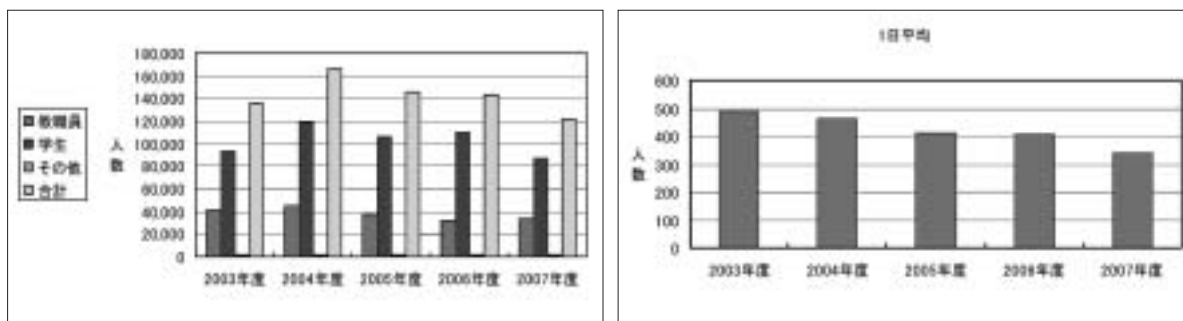
(ますだ・のりえ 看護専門学校3年)



# 図書館利用状況

(2003年度～2007年度の推移)

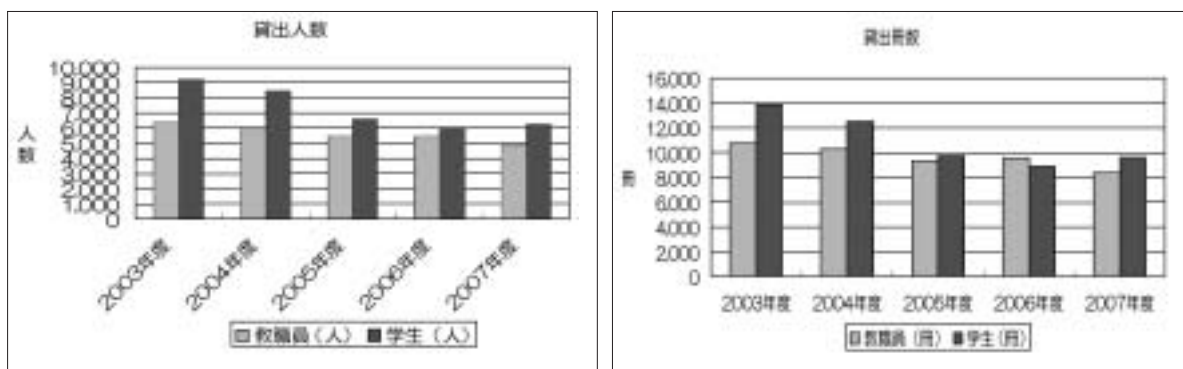
## 1. 入館者数



	教職員	学 生	その他	合 計	1日平均
2003年度	40,635	92,943	1,678	135,256	488
2004年度	45,052	118,772	1,723	165,547	464
2005年度	37,433	106,514	1,238	145,185	408
2006年度	32,330	109,837	1,291	143,458	403
2007年度	33,175	86,591	1,353	121,119	338

入館者数計測システムが計測した入館者数の5年間の推移です。2003年9月から夜間や休日の無人開館が始まり開館時間は増えているのですが、図書館の入館者はどんどん減少しています。情報のオンライン化により、文献検索や資料の閲覧が図書館以外からもできるようになったため、図書館に足を運ぶ必要がなくなったことがひとつの原因だと考えられます。加えて今年度、学生人数が激減したところをみるとPA会館など他にも利用できる施設ができたことも一因かと思われます。

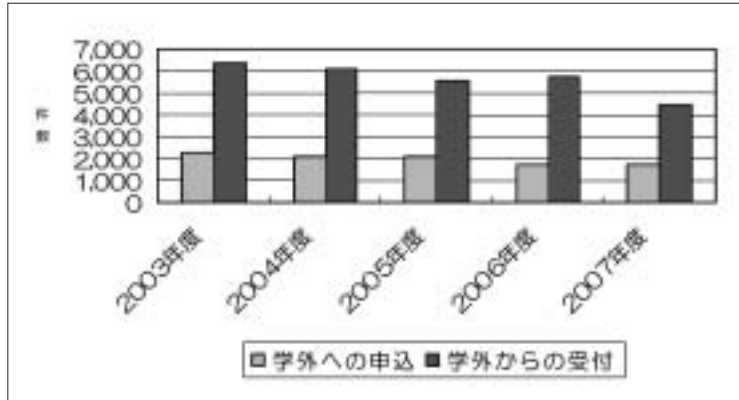
## 2. 貸し出し



	教職員(人)	教職員(冊)	学 生(人)	学 生(冊)
2003年度	6,367	10,724	9,179	13,809
2004年度	5,992	10,278	8,439	12,478
2005年度	5,458	9,282	6,532	9,698
2006年度	5,438	9,532	6,004	8,895
2007年度	4,860	8,332	6,245	9,591

貸し出し状況の推移からも前記の入館者数の推移の理由が裏付けられるように思います。

### 3. 相互貸借



	学外への申込件数	学外からの受付件数
2003年度	2,248	6,385
2004年度	2,074	6,135
2005年度	2,108	5,579
2006年度	1,689	5,718
2007年度	1,716	4,439

2007年度は学外への申し込みはやや増加したものの、学外からの受付は激減しました。全国的な傾向として相互貸借の利用は減少しています。その理由のひとつとしてオンラインで利用できる情報が増えたことが考えられます。学内で申し込まれた複写依頼のうち、調べてみるとオンラインで利用できるものが138件もありました。

今後、図書館には何を求められるようになっていくのでしょうか。

### メディカルオンライン利用報告

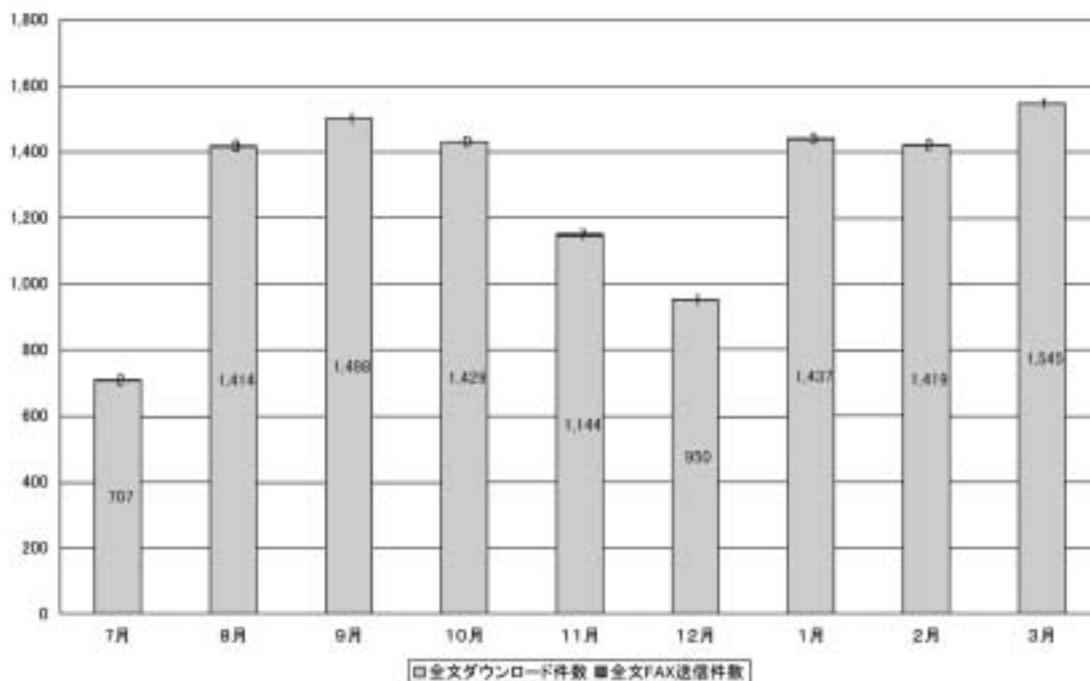
図書館では2007年7月より、国内発行の雑誌約560誌の論文の全文が利用できるメディカルオンライン (Medical\*Online) を契約し学内の利用に提供しています。2007年度中の利用統計ができましたので報告いたします。

メディカルオンライン月別利用件数

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全文ダウンロード件数	707	1,414	1,498	1,429	1,144	950	1,437	1,419	1,545	11,543
全文FAX送信件数	2	3	1	0	7	1	3	2	1	20
合計	709	1,417	1,499	1,429	1,151	951	1,440	1,421	1,546	11,563

各月毎に、全文がダウンロードされた件数と、全文をFAX送信した件数です。導入開始の7月と、年末に向けて11月から12月にかけて利用数が減りましたが、その他の月は一定の利用件数がありました。2007年7月から2008年3月までの利用件数の月平均は1,285件となります。





#### メディカルオンライン利用タイトルベスト30

順位	雑誌名	利用件数	冊子購読
1	外科診療	437	非購読
2	外科治療	435	購読中
3	理学療法	413	非購読
4	医学のあゆみ	372	購読中
5	総合臨牀	271	購読中
6	診断と治療	269	購読中
7	理学療法学	267	非購読
8	医道の日本	256	購読中
9	小児科診療	253	購読中
10	臨牀と研究	190	購読中
11	治療	180	購読中
12	胆と膵	178	購読中
13	ビタミン	170	購読中
14	Medical Technology	154	購読中
15	JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION	151	非購読
16	癌と化学療法	144	購読中
17	日本臨床バイオメカニクス学会誌	143	非購読
18	Modern Physician	141	非購読
18	日本消化器病学会雑誌	141	購読中

20	ICUとCCU	140	購読中
21	理学療法科学	131	購読中
22	中医臨床	129	購読中
23	泌尿器外科	123	非購読
24	臨床研修プラクティス	120	購読中
25	リハビリテーション医学	116	購読中
26	PROGRESS IN MEDICINE	115	非購読
26	炎症と免疫	115	非購読
28	日本臨牀	114	購読中
29	日本薬理学雑誌	113	購読中
30	小児科臨床	109	購読中

利用件数とは全文がダウンロードおよびFAX送信された論文数です。冊子購読が現在行われているか否かを、購読中と非購読で区別しました。

### 本学教職員著作寄贈

(平成19年11月～平成20年4月分)

勝 建一 先生 (内科学Ⅱ) 寄贈日：2007年12月5日

消化管内視鏡検査法の進歩：光学系内視鏡から電子内視鏡への歩みと応用／勝健一著 2007.3  
金芳堂

黒岩 敏彦 先生 (脳神経外科) 寄贈日：2008年2月28日

脳腫瘍の外科：合併症のない脳腫瘍の外科を目指して／黒岩敏彦編 2008.2 メディカ出版  
すぐに役立つ脳神経外科救急ハンドブック／日本脳神経外科救急学会編 2008.2 メディカ出版

脳神経外科ハンドブック／Mark S.Greenberg著；黒岩敏彦監訳；保田晃宏 [ほか] 訳 第3版  
2007.10 金芳堂

大阪医科大学放射線医学教室 寄贈日：2008年3月5日

榎林勇教授退任記念誌1／大阪医科大学放射線医学教室編 2008.3 大阪医科大学放射線医学教室

榎林勇教授退任記念誌2／大阪医科大学放射線医学教室編 2008.3 大阪医科大学放射線医学教室



### 1. ネットワークカメラシステム設置について

図書館では安全で快適な利用環境を守るため本年3月、館内全域に高感度ビデオカメラを設置しました。撮影範囲は図書館2階及び3階部分のほぼすべてをカバーしており、撮影された映像は閉館時を含め24時間記録され、一定期間保存されます。

このことにより利用者のプライバシーを侵害することはありませんが、利用規則を遵守しない利用者に対しては映像を証拠として対応する場合がありますので承知願います。

### 2. 図書館ツアーについて

4月に図書館ツアーを実施しました。参加者は数名でしたが、図書館内をひと巡りしてちょっとおもしろい体験をしていただけたのではないかと思います。今後、希望者があればツアーを実施いたします。また、OPACの使い方や、情報検索の講習会も行いますので、ぜひご参加ください。

### 3. ニューメディア室の利用について

PC本体、アプリケーションソフトが何らかの原因で動作不安定な状態になるとデータを保存できないことがあります。

トラブルの発生を防止するために、

- ①PCの使用後は必ず電源を切ってください。
- ②PCの使用前に電源が切れていない場合は再起動をさせてください。
- ③Landiskは一時的な保存にのみご利用ください。
- ④データは各自で責任をもって管理願います。

機械上の不具合が発生した場合は、速やかに図書館職員へ報告してください。

### 4. 蔵書点検について

2007年12月28日（金）と2008年1月4日（金）の2日間にわたり、看護専門学校図書室所蔵の図書資料について蔵書点検を行いました結果、所在のわからない資料が37冊もありました。

教室等で借主不明の資料がありましたら至急図書館に返却してください。

## 図書館業務日誌

- 平成19年12月  
20日（木）図書館長選挙管理委員会（於、図書館会議室）  
25日（火）図書館合同運営委員会・P D C A委員会（於、図書館館長室）
- 平成20年1月  
4日（金）蔵書点検（看護専門学校図書資料）  
21日（月）図書館合同運営委員会・P D C A委員会（於、図書館館長室）  
30日（水）図書館長選挙管理委員会（於、図書館会議室）
- 2月  
13日（水）図書館長選挙公示  
25日（月）図書館合同運営委員会・P D C A委員会（於、図書館館長室）  
28日（木）・29日（金）図書館長選挙
- 3月  
11日（火）教育研究情報大学共同購入機構全体会議 館員出席（於、早稲田大学）  
17日（月）～21日（金）図書館ネットワークカメラ設備工事
- 24日（月）P U L Cワークショップ 館員出席（於、千里ライフサイエンスセンター）  
28日（金）近畿病院図書室協議会総会・研修会 館員出席（於、ペアーレ神戸）
- 4月  
14日（月）～18日（金）会計検査院検査  
24日（木）・25日（金）内部監査  
28日（月）図書館合同運営委員会・P D C A委員会（於、図書館館長室）
- 5月  
16日（金）日本医学図書館協会近畿地区例会 館員出席（於、京都府立医科大学）  
26日（月）図書館合同運営委員会・P D C A委員会（於、図書館館長室）  
29日（木）・30日（金）日本医学図書館協会総会 館長・館員出席（於、京王プラザホテル札幌）

## 編 集 後 記

本年4月1日付で河野館長が再任され、これまでの実績と今後の抱負を巻頭言にてまとめられています。図書館職員数は、平成18年には10名体制でしたが現在は8名と人員が削減されています。厳しい経営環境と変化の中で、館長の下に一丸となってよりよい図書館運営を目指していかなければなりません。

さて、梅雨のむし暑い頃となりました。20年以上も昔のことですが、京都上七軒の格子の残る町家の前を、三味線を抱いた芸妓が蛇の目傘をさしながら過ぎていきました。表紙のカットは、そんな景色を美しい切絵で見せてくれています。もう雨は上がったのに傘をさしたまま歩く芸妓の粋（すい）な姿は、吹き込む風のようにさわやかでした。

初代図書館課長の北村達郎氏の甥子さんが、人間国宝の常磐津一巴太夫さん（京都在住）だったことなど思い出します。私事ですが、その一巴太夫さんの系統の常磐津一佐太夫師からしばらく古曲の宮蘭節を習った事がありました。（門田）

OMNIBUS「大阪医科大学図書館報／大阪医科大学附属看護専門学校図書室報」

No.33号 2008年6月16日 発行

編集・発行 大阪医科大学図書館

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL (072) 683-1221

(内線2799, 2621)

印刷 大日本印刷株式会社